



ペーパーポット育苗におけるトマトのかん水方法

【1 成果の概要】

トマトのペーパーポット育苗時に子葉のねじれ・しおれを指標にかん水を行うことで、徒長が抑えられ揃いも良好な定植苗を得ることができます。

【2 ペーパーポット育苗時のかん水管理の目安】

播種時	→	子葉展開期	→	定植適期 (本葉 3.5 葉期、主茎長 10cm 程度)
2～3L	無かん水	0.5L	子葉のねじれ(図1)・しおれ(図2)時に 1トレイ当たり 1L のかん水を行う	

※子葉のねじれ・しおれの判定は午前中に行う



図1 子葉のねじれ



図2 子葉のしおれ

【3 この技術を上手に使うには】

(1)ペーパーポットは、現地で使用事例の多い 1 鉢寸法 4.7×7.5 cm の「No. 15-7.5H」(日本甜菜製糖株式会社)を用いて行います。

(2)若苗定植となりますので、圃場準備時の土壌水分や定植後のかん水が過多にならないように注意が必要ですが、この育苗方法で得られた苗により慣行ポット育苗法と同等の収量が得られます。

(3)育苗中に低温や曇天が続く場合は、かん水量やかん水回数を適宜調整します。

(4)乾燥により培土が崩れやすいので、定植当日は早朝にかん水を十分行います。



図3 定植適期時の様子

【4 効果】

育苗の大幅な省力化が可能です。また、抑制作型の育苗にこの方法を用いることにより、9 月以降の出荷量の増加が見込めます。